

鹿児島大学医学部医学科を本日卒業される皆さん、ご家族の皆さま、そしてこれまで学生を支えてこられた多くの関係者の皆さまに、心よりお祝い申し上げます。医学部長として、皆さんを自信をもって社会に出せることを大変誇りに思います。

皆さんが医学の道を志し、努力を重ねたこの十年あまり、日本社会は大きな転換点を迎えました。COVID-19による世界的パンデミックにより、少子高齢化は17年前倒しになるなどかつてない速度で進み、生成AIの進化の速度は、医療界全体の変革をもたらそうとしています。人口が減少し、社会の構造が縮小へと向かう「昭和100年」の日本において、医療を支える人材の価値は様々な点でこれまで以上に高まっています。皆さんは、まさにその新しい時代の医療を担う中心として、大きな期待を背負って今日ここに立っています。

これから皆さんが向き合う医療の現場では、複雑さと多様性が増してきています。高齢者の多疾患併存、慢性疾患の長期管理、医療と介護の連携、地域間格差の是正、収入の格差そして限られた医療資源の中での最適な医療提供。こうした課題に立ち向かうには、医学的知識や技術に加え、医師としてのプロフェッショナリズムが不可欠です。患者さんの尊厳を守り、誠実であること。科学的根拠に基づきながらも、人の痛みや不安に寄り添う姿勢を持ち続けること。それこそが、医師としての揺るぎない土台となります。

AIやロボティクス、ゲノム医療などの技術革新が進む一方で、医療の本質は変わりません。患者さんの人生に寄り添い、共に悩み、共に歩む姿勢こそが、医師としての価値を決定づけます。技術が進歩するほど、人間性がより強く問われる時代になるでしょう。鹿児島県は、離島やへき地を多く抱えています。医療アクセスの課題は全国でも際立っています。学生時代に経験した離島やへき地での地域医療実習は、皆さんにとって医師としての原点を形づくる貴重な学びであったはずです。医療資源が限られた環境でこそ、医師の創意工夫とチーム医療の力が問われます。どこで働くとしても、鹿児島で培った「患者・地域に寄り添う医療」の精神を忘れずにいてください。

医師の先輩として皆さんに一つの願いがあります。それは、「自分の友人が、その人自身の母親の診療をあなたに任せたい」と思えるような医師になってほしいということです。これは、技術の高さだけを指すものではありません。患者さんを一人の人として尊重し、その人生に真摯に向き合う姿勢を持つ医師であってほしいという願いです。信頼される医師とは、専門性と人間性の両方を兼ね備えた医師の事です。

これからの道のりは決して平坦ではありません。医療の現場では、患者様とのトラブルもあり得ますし、判断が難しい場面に直面することもあるでしょう。しかしながら、困難な場面を乗り越えることが、医師としての成長を支えます。知識が自身を救います。研鑽を忘れず、鹿児島大学で培った知識、技術、そして仲間との絆は、必ず皆さんを支えてくれるはずです。

これから君たちは、全国に羽ばたき、様々な領域で活躍していくでしょうが、そこには、必ず鹿児島大学の私共教員や教室の医師がいます。医師の世界は好むと好まざるにかかわらず繋がっています。本日が実は最後ではなく、今後も学会等で必ず見ている教員・先輩がいます。頑張っているその姿を見せてください。

どうか誇りと責任を胸に、そして何より医療への情熱を忘れず、それぞれの場所で力を尽くしてください。皆さんがこれから出会う多くの患者さんの人生を照らし、未来の医療を支える存在となることを心から願っています。

本日は誠におめでとうございます。

令和8年3月25日

鹿児島大学医学部長 大脇哲洋